国際女子トップ柔道選手の練習環境に関する調査

○山口香（武蔵大学）、中村勇（鹿屋体育大学）、渡辺涼子（金沢学院大学）、吉見浩二（高岡法科大学）、岡田弘隆（筑波大学）

【目的】
本研究では海外トップ女子柔道選手と全日本女子強化選手を対象に彼女らを取り巻く練習環境を調査、分析することにより、今後の女子柔道発展のための基礎資料をすることを目的とする。

【方法】
海外トップ選手 34 名（10 カ国）と日本人強化選手 32 名を対象にアンケート調査を行った。個人の練習を取り巻く環境について、主に収入、日常の練習環境、引退後の進路などに関する質問内容で日本語版と英語版のアンケート用紙を用意した。海外選手には 2002 年 2 月のフランス国際合宿、日本選手には 5 月の全日本合宿時に調査した。

【結果】
海外選手の 91.2%、日本選手の 84.4%が強化選手であった。収入が「生活には十分だがトレーニングや遠征には不十分」な状態にある海外選手が 44.1%であったのに対し、日本選手は「必要十分」と回答したもののが 71.8%となった（表 1）。また前者の 88.2%が「練習は十分行えるが通常の仕事もこなさないといけない」状況であるが、後者の 46.9%は「収入も練習時間も十分とれる」環境にあった。また練習場所は海外選手がクラブか武道館などの施設で、日本選手は会社か学校で行うケースがほとんどであった。

この他練習内容や指導者などに対する満足度、引退後の希望職種、さらに柔道環境における性差などについて海外選手と日本選手間で比較し報告を行う。

表1 あなたの経済的な現状を教えてください

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>生涯には十分、トレーニングは不十分</th>
<th>生涯は不十分、トレーニングは十分</th>
<th>その他</th>
<th>外国</th>
<th>日本</th>
<th>全体</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>必要以上の収入</td>
<td>No. '％'</td>
<td>No. '％'</td>
<td>No. '％'</td>
<td>No. '％'</td>
<td>No. '％'</td>
<td>No. '％'</td>
</tr>
<tr>
<td>必要十分な収入</td>
<td>No. '％'</td>
<td>No. '％'</td>
<td>No. '％'</td>
<td>No. '％'</td>
<td>No. '％'</td>
<td>No. '％'</td>
</tr>
</tbody>
</table>